

<b>授業科目名</b>	教育方法・技術論 B (中等) (2100234)		
<b>時間割名</b>	教育方法・技術論 B (中等) (51116)		
<b>時間割担当</b>	正木友則	金山憲正	
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	金・1		

### 授業の目標・概要

国内外の中等教育に関する教育方法についての諸理論や実践記録等の検討を通して、これからの時代に求められる学力等を育成する方法について学ぶとともに、実際の学校における、教育課程編成の理論と方法、指導と評価の計画の作成等について考える。授業は、ペアやグループなどによる活動を重視する。

### 学習の到達目標

学校における教育課程を編成、展開する教育方法についての基礎的・基本的な内容を学び、教育方法の技術の基礎を身に付ける。あわせて、学生自身が受けてきた授業を相対化することによって、教育方法を柔軟に捉え直す力を身に付ける。

### 授業方法・形式

それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。必要に応じて、ペアやグループ学習、取り上げるテーマに関するディスカッション等を行う。

### 授業計画

- 第1回 教育内容と教育方法 (担当:西辻正副)  
生徒に「何を」(教育内容)、「どのように」(教育方法)教えるのかについて、その一連の過程における原理と方法を学ぶための導入を行う。
- 第2回 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させるための教育方法 (担当:西辻正副)  
学力の重要な要素の一つである基礎的・基本的な知識及び技能を育成する教育方法について学ぶ。
- 第3回 思考力・判断力・表現力等を育むための教育方法 (担当:西辻正副)  
学力の重要な要素の一つである思考力・判断力・表現力等を育成する教育方法について学ぶ。
- 第4回 主体的に学習に取り組む態度を養うための教育方法 (担当:西辻正副)  
学力の重要な要素の一つである主体的に学習に取り組む態度、学習意欲を高める方法を学ぶ。
- 第5回 個性を生かす教育の充実を図るための教育方法 (担当:西辻正副)  
個に応じた指導の充実など、現在求められている指導の工夫改善等について幅広く考える。
- 第6回 教育方法の類型と実践 (担当:西辻正副)  
様々な教育方法の相互の関係とそれらのバランスを踏まえた授業展開の条件について考える。
- 第7回 これからの時代に求められる能力と教育方法 (担当:西辻正副)  
学習指導要領の理念である生きる力や、21世紀に求められるスキル等を育成する実践を考える。
- 第8回 教育課程編成の理論と方法 (担当:西辻正副)  
学習指導要領に基づいた、各学校における教育課程編成の実際について学ぶ。
- 第9回 年間の指導と評価の計画の作成方法 (担当:西辻正副)  
各学校の教育課程に基づく具体的な年間の指導と評価の計画の作成について考える。
- 第10回 学習指導案の作成方法 (担当:西辻正副)  
各学校の年間の指導と評価の計画に基づく具体的な学習指導案の作成について考える。
- 第11回 授業づくりと教材研究の方法 (担当:米川雅士)  
学習指導要領の趣旨の実現に向けた各教科等の教材作りに情報メディアを活用する。

### 成績評価の基準

#### 授業計画

- 第12回 メディアと教育方法 (担当:米川雅士)  
学習指導におけるICT等の活用について学び、授業に活用する方法について考える。
- 第13回 学習評価の意義と方法 (担当:米川雅士)  
指導の改善に生きる、妥当性・信頼性のある学習評価について学び、その処理方法について学ぶ。
- 第14回 タイムリーな課題 (担当:西辻正副)  
各回で取り上げることが出来なかった話題で、タイムリーなものや、喫緊の課題などを学ぶ。
- 第15回 授業の総括として、これまで身に付けたことについて振り返る。(担当:西辻正副)

#### 成績評価の基準

授業中に課する小レポートを評価し、授業に対する関心・意欲・態度や理解度を評価する(30%)。  
課題レポートにおいて、課題探究の深さ、緻密さ、斬新さなどを評価する(30%)。  
学期末テストにおいては総合的な理解を確認する(40%)。

### 準備学習・復習及び授

授業時に、次回以降の学習テーマについて、キーワードをはじめ、予習する内容を具体的に伝える。必要に応じて提出も課する。復習についても同様。

### 履修上のアドバイス及

教育方法・技術論Aで学んだことと教育実習で経験したことを関連づけながら、主体的・対話的で深い学びのための学習指導のあり方を考えていくようにしてください。その際学習指導要領に記載されてある内容を常に意識しておくことが大切になってきます。

## 教材・教科書

テキスト：『言語活動の充実に関する指導事例集（高等学校版）』『同（中学校版）』（以上、文部科学省）。また、「講義ノート」を作成し、毎回配付する。

## 参考書

参考書：授業中に指示する。